

第1章 工事概要

1. 工事名称
 2. 発注者
 3. 工事場所
 4. 主要用途
 5. 規模
 ■面積：計算書による
 ■構造 在来軸組構法(方法1) 伝統的構法(方法2)
 ■既存基礎 鉄筋コンクリート基礎 (健全 ひび割れ有り)
 無筋コンクリート基礎 (健全 軽微なひび割れ有り ひび割れ有り)
 玉石基礎 (足固め有り 足固め無し)
 その他の基礎 ()

6. 工事範囲 本工事は、「 」に
 関するものである。なお、別途設備工事との取り合いに留意のこと。

7. 工事計画 本工事は、既存の木造構造体に対して部材を補修又は増設することに依
 って耐震性の向上及び構造の改善を図るもので、既存構造体との接合が極
 めて重要である。また、この施工は限られた場所で行われるもので、一般
 の建築工事とは施工方法等相当異なる面がある。
 よって、設計の趣旨及び最終的な建物の状態を十分理解した上で工法を
 選び、施工計画をたてなければならない。
 特に次の点に十分注意すること。
 a) 構造体寸法、階高寸法その他は実測による。
 b) 適切な接合金物を選択する。
 c) 既存構造体の金物締め直しを行う。
 d) 騒音、粉塵及び汚染などの支障を及ぼす範囲をできるだけ小さくする。
 e) 仕上げ及びコンクリート等の撤去に際しては、最小限必要な範囲とし
 残りの部分を傷めないように十分注意する。又、腐朽部分は取り替える。
 f) 既存配管、配線及び器具等を十分に調査し、損傷を与えないように注
 意する。
 g) 施工に先立ち全行程の施工計画書を作成し、施主及び設計者に承認を
 得ること。試験を伴う場合は、試験方法、及び結果報告を遅滞なく行
 うこと。なお、施工計画書は工事種目別ごとに作成すること。

8. 工事内容 工事項目は下記による。
 耐力壁設置【筋交い】 (外壁面 内壁面)
 耐力壁設置【面材】 (外壁面 内壁面)
 耐力壁設置【 鉄骨 金物取付
 金物の締め直し
 屋根面補強
 小屋面補強
 2階床面補強
 1階床下補強
 基礎補強
 地盤補強
 腐朽部分取り替え

 又上記工事に伴う撤去・修復等の工事も併せて行う。
 真壁補修 有 (土壁補修 モルタル補修)
 無 ※無しの場合、真壁の耐力は考慮しない

第2章 総則

1. 準拠する
 規準 ・三重県木造住宅耐震診断マニュアル (平成25年度改訂版)

2. 適用範囲 本工事は、設計図に基づくものとする。記載なき場合は、次に定める規準
 に依るところとする。
 ・2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法 (一財)日本建築防災協会

3. 疑義又は
 軽微な変
 更 図面と仕様書との内容に相違があった場合や不明な箇所が生じた場合は、
 すべて監督員との協議に拠るものとする。

4. 工事写真 次の写真は工事記録として残すこと。
 (1) 解体時及び解体完了時の主要構造部
 (2) 改修個所の改修前、中、後
 (3) 脱着機器等の前、後

第3章 仮設工事

1. 施工内容 工事期間中に建物の使用が考えられるため、安全に対し十分な配慮を行
 うこと。
 場合によっては仮設間仕切りや仮囲い等を設け工事関係者以外の工事箇
 所立入を禁止すること。

2. 施工上の
 注意事項 仮設工事は次の各項に留意して行うこと。
 a) 既存部材の仕上げ材及び器具類に損傷を与えないよう充分注意す
 ること。なお、場合によっては必要に応じてシート等で養生する。

第4章 特別な材料・工法等

1. 特別な材
 料 別添図面に示す
 無し

2. 特別な工
 法 別添図面に示す
 無し

基礎補強標準図 全面 (鉄筋コンクリート基礎に該当)
 部分 (クラック補修)

使用材料等

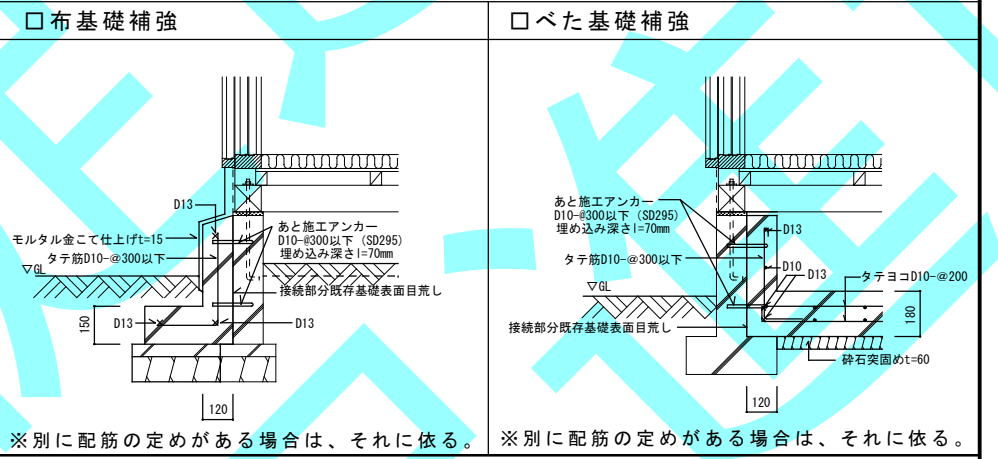
A 基礎 直接基礎 独立基礎 布基礎 ベタ基礎 地耐力 KN/m² (長期)
 杭基礎 R C P H C 杭耐力 KN/本 (長期)

B 鉄筋 S D 295A (径)
 S D 345 (径)

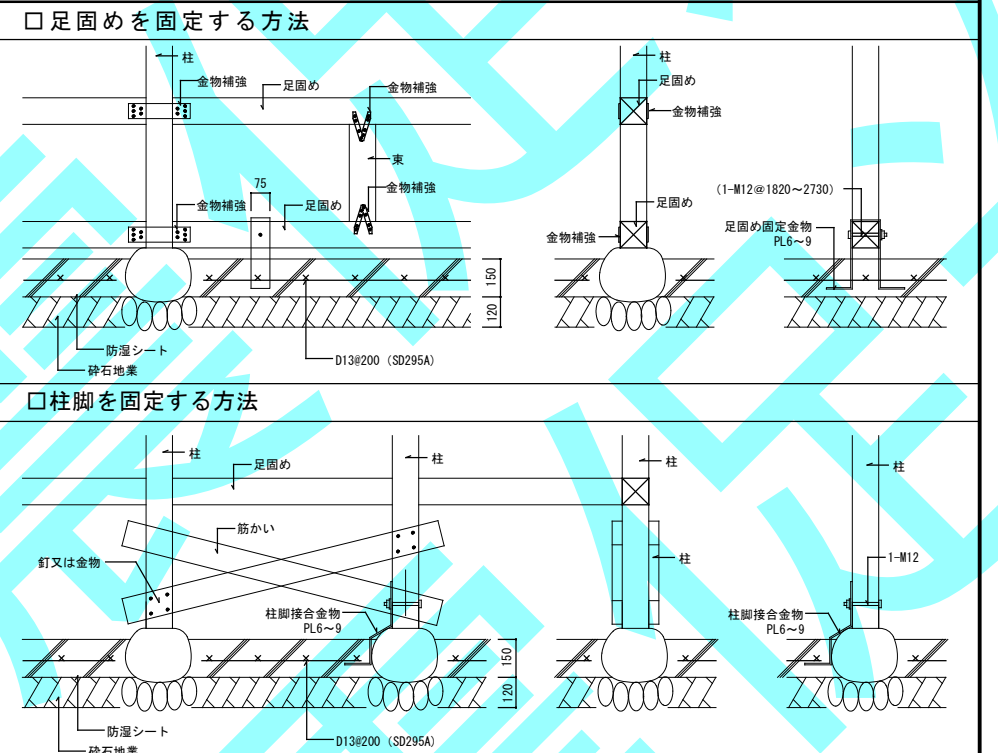
C コンクリート Fc= N/mm²

D あと施工アンカー 接着系アンカー
 金属系アンカー

E その他



床下補強標準図 (基礎がない場合)



※本特記仕様書は、チェック印又は○印を付した物を適用する。		設計年月日	工事名称	図面番号
		縮尺	図面名称 vol. 2012 木構造耐震補強工事特記仕様書No. 1	

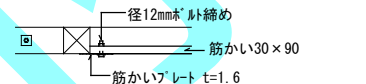
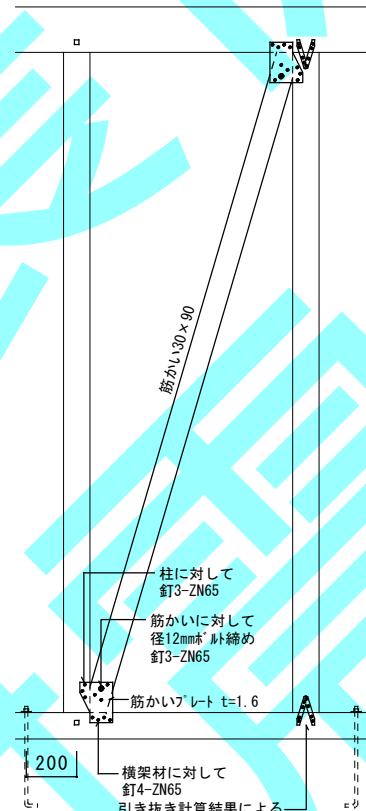
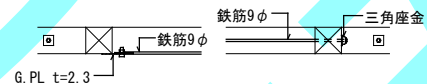
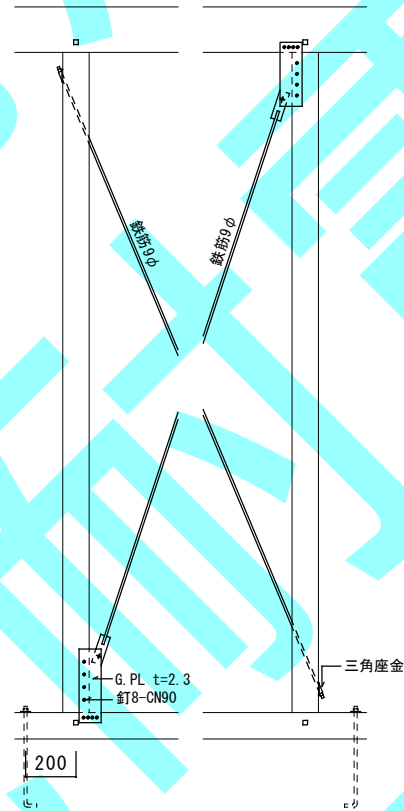
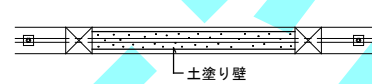
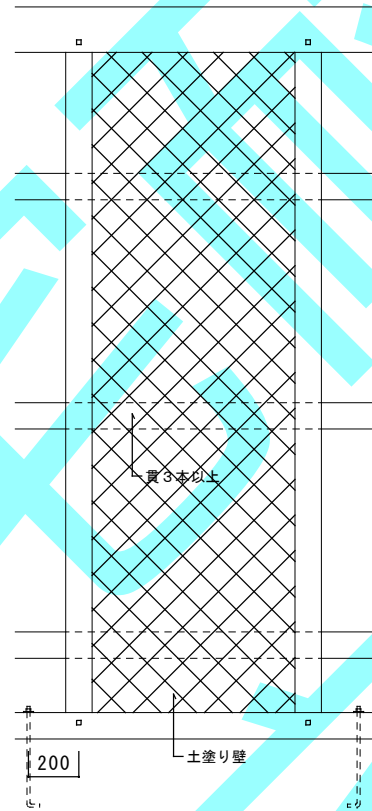
特記：使用金物類は、日本住宅・木材技術センターのZ金物相当品とする。
 下図は告示による表記であり、メーカー仕様による該当品の使用も可である。

<p>い □短ほぞ差し、かすがい打ち 短期許容耐力 1.62KN</p>	<p>ろ □長ほぞ差し込み栓打ち 短期許容耐力 (3.81KN 暫定数値)</p>	<p>か □かど金物 (CP・L) 短期許容耐力 3.38KN</p>	<p>は □かど金物 (CP・T) 短期許容耐力 5.07KN</p>	<p>□山形プレート (VP) 短期許容耐力 5.88KN</p>
<p>に (SB・F2、SB・E2) □羽子板ボルト/スクリュー釘なし 短期許容耐力 7.50KN</p>	<p>□短冊金物/スクリュー釘なし (S) 短期許容耐力 7.50KN</p>	<p>ほ (SB・F、SB・E) □羽子板ボルト+スクリュー釘あり 短期許容耐力 8.50KN</p>	<p>□短冊金物+スクリュー釘あり (S) 短期許容耐力 8.50KN</p>	<p>へ □引き寄せ金物 (HD-B10、S-HD10) 短期許容耐力 10.0KN</p>
<p>と □引き寄せ金物 (HD-B15、S-HD15) 短期許容耐力 15.0KN</p>	<p>ち □引き寄せ金物 (HD-B20、S-HD20) 短期許容耐力 20.0KN</p>	<p>り □引き寄せ金物 (HD-B25、S-HD25) 短期許容耐力 25.0KN</p>	<p>ぬ □引き寄せ金物 (HD-B15、S-HD15) × 2個 短期許容耐力 30.0KN</p>	
			<p>※接合方法は (と) に準ずる</p> <p>(と) を2個使ったもの</p>	
<p>※本特記仕様書は、チェック印又は○印を付した物を適用する。</p>				

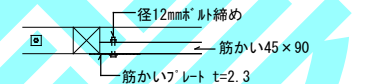
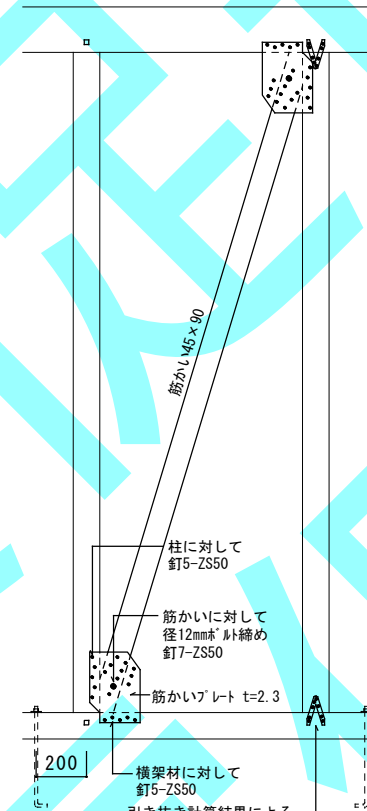
□壁によるもの

□筋かいによるもの

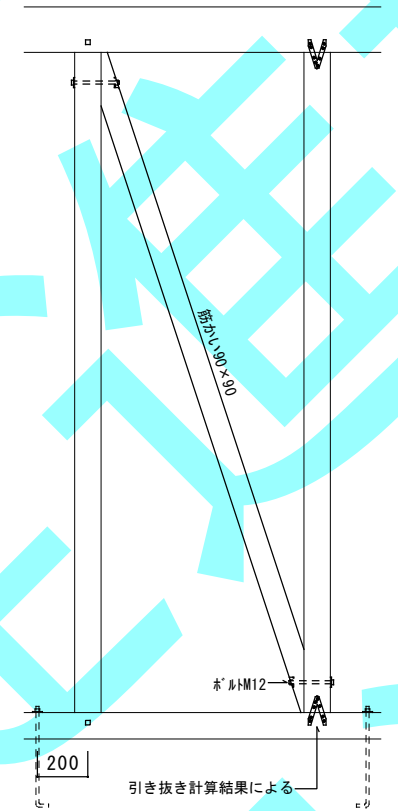
工法	基準耐力 (KN/m)	基準剛性 (KN/rad./m)	工法	基準耐力 (KN/m)	基準剛性 (KN/rad./m)	工法	基準耐力 (KN/m)	基準剛性 (KN/rad./m)	工法	基準耐力 (KN/m)	基準剛性 (KN/rad./m)	工法	基準耐力 (KN/m)	基準剛性 (KN/rad./m)
□土塗り壁 (塗厚70mm以上 90mm未満)	3.5	680	□鉄筋9.0mm以上	1.6	210	□木材30mm×90mm以上	2.4	480	□木材45mm×90mm以上	3.2	650	□木材90mm×90mm以上	4.8	830
□土塗り壁 (塗厚90mm以上)	3.9	750												



□上図は、告示による表記でありメーカー仕様による該当品の使用も可である。



□上図は、告示による表記でありメーカー仕様による該当品の使用も可である。



※本特記仕様書は、チェック印又は○印を付した物を適用する。

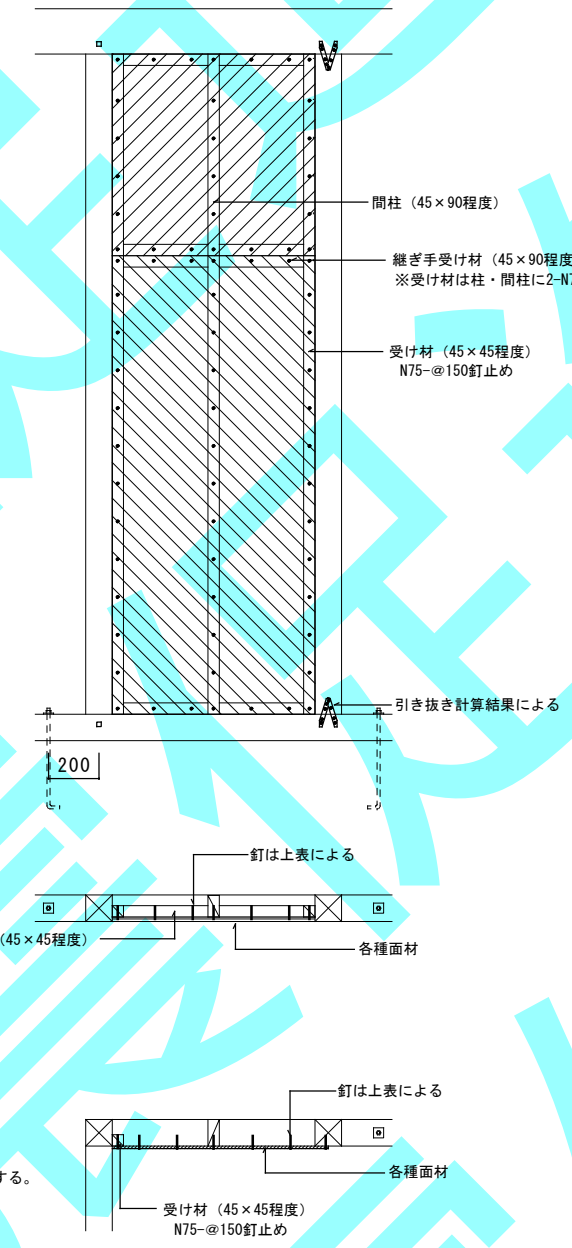
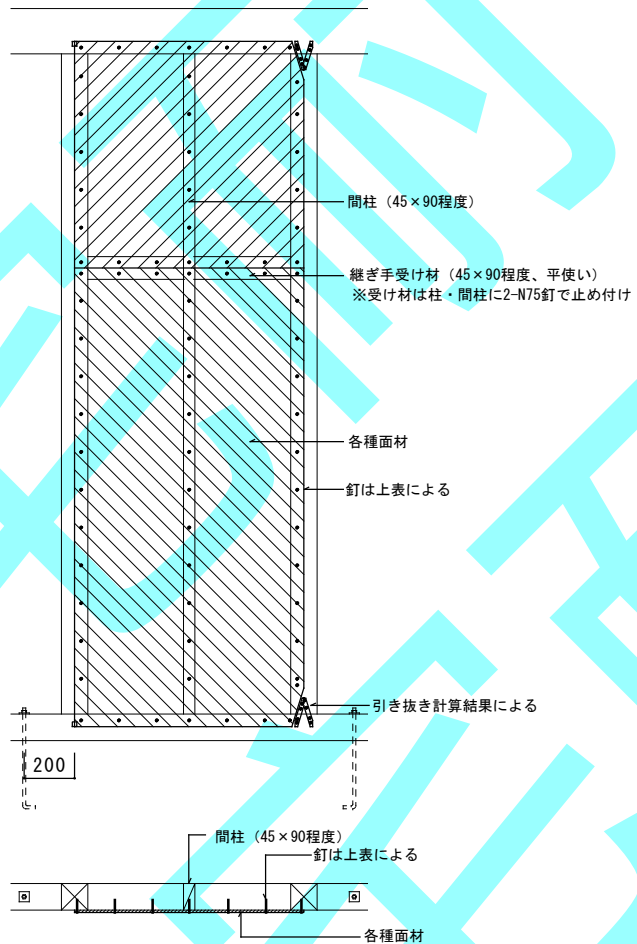
設計年月日	工事名称	図面番号
縮尺	図面名称 vol. 2012 木構造耐震補強工事特記仕様書No. 3	

□面材によるもの

□大壁タイプ(外壁用、内壁用)					
材 料	設計板厚 (mm)	釘打ちの方法		基準耐力 (KN/m)	基準剛性 (KN/rad./m)
		種 類	間隔 (mm)		
□ 構造用合板直張り (特類、2級以上、厚7.5mm以上)		N50	四周打ち @150	5.2	860
□ 構造用合板直張り (特類、2級以上、厚7.5mm以上)			ビス(φ2.8以上 長さ28~40mm)	3.4	1040
□ 構造用合板直張り (特類、2級以上、厚7.5mm以上)		N50	川の字打ち @150	3.1	470
□ 構造用パネル直張り (4級以上、厚9mm以上)		N50	四周打ち @150	5.0	920
□ パーティクルボード直張り (JIS 13M相当、厚12mm以上)				5.0	1060
□ ハードボード直張り (JIS繊維板、S35相当、厚5mm以上)				3.9	1140
□ 硬質木片セメント板直張り (JIS木質系セメント板、厚18mm以上)				4.1	1020
□ けい酸カルシウム板直張り (けい酸カルシウム板、厚8mm以上)		GNF40		3.1	780
□ フレキシブル板直張り (JIS繊維強化セメント板、厚6mm以上)				3.8	930
□ シーリングボード直張り (JIS繊維板、厚12mm以上)		SN40	外周@100 中通り@200	3.0	790
□ ラスシート+モルタル塗り (モルタル厚20mm程度)		N38 (フック付)	@150以下	2.5	810
□ 木ずり下地モルタル塗り (木ずり、モルタル厚20mm程度)		木ずり:N50 52:1019J	木ずり@455 ラス@100	2.2	610
□					

□大壁タイプ(内壁用)					
材 料	設計板厚 (mm)	釘打ちの方法		基準耐力 (KN/m)	基準剛性 (KN/rad./m)
		種 類	間隔 (mm)		
□ 石膏ボード直張り (GB-R、厚12mm以上)		GNF40	四周打ち @150	2.6	450
□ 石膏ボード直張り (GB-R、厚12mm以上)			ビス(φ3.8以上 長さ28~40mm)	2.2	510
□					

□真壁タイプ(外壁用、内壁用)					
材 料	設計板厚 (mm)	釘打ちの方法		基準耐力 (KN/m)	基準剛性 (KN/rad./m)
		種 類	間隔 (mm)		
□ 構造用合板受材張り (特類、2級以上、厚7.5mm以上)		N50	四周打ち @150	5.0	910
□					



※大壁タイプの入隅部分もこの仕様とする。

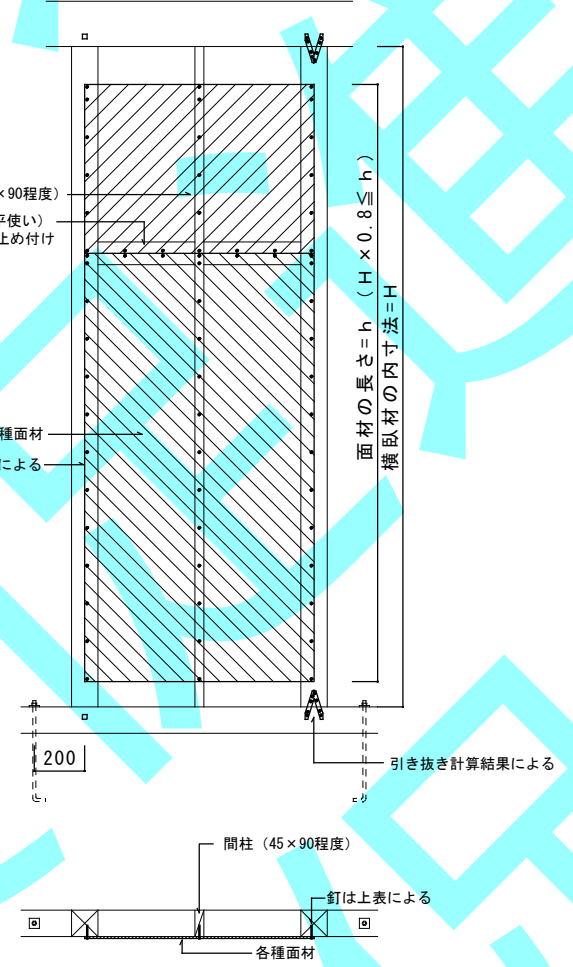
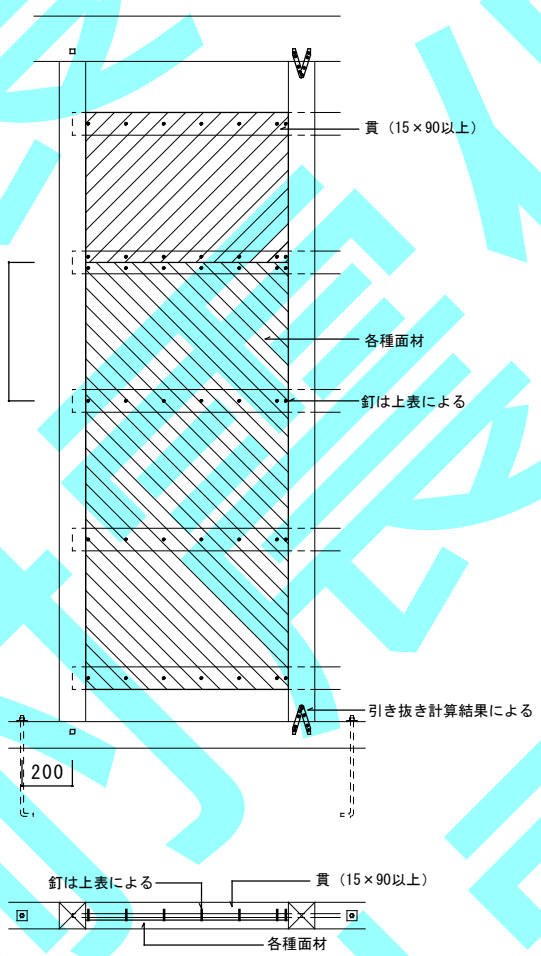
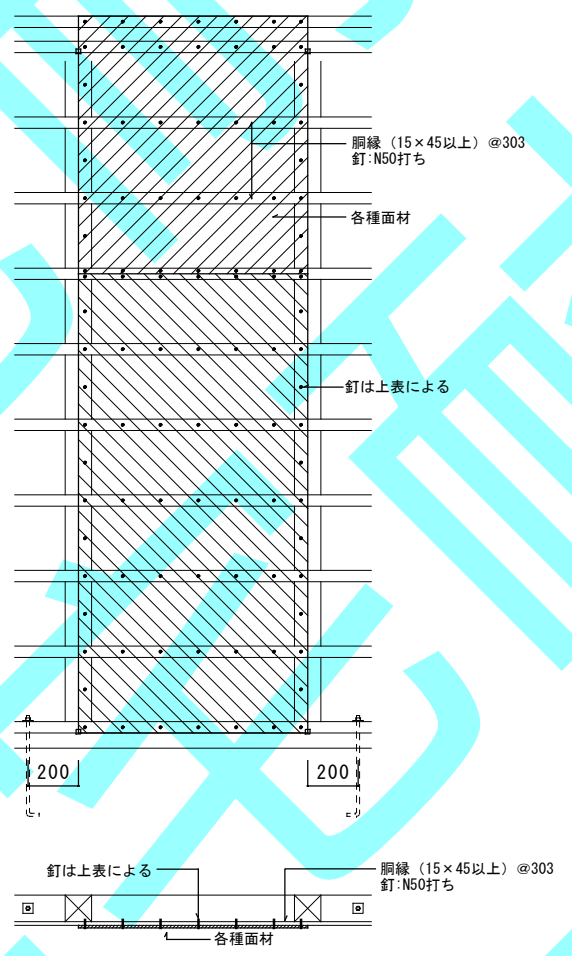
※本特記仕様書は、チェック印又は○印を付した物を適用する。		設計年月日	工事名称	図面番号
		縮尺	図面名称 vol.2012 木構造耐震補強工事特記仕様書No. 4	

□面材によるもの

□胴縁タイプ（内壁用）					□貫タイプ（外壁用、内壁用）					□準耐力壁タイプ（内壁用）							
材 料	設計板厚 (mm)	釘打ちの方法		基準耐力 (KN/m)	基準剛性 (KN/rad./m)	材 料	設計板厚 (mm)	釘打ちの方法		基準耐力 (KN/m)	基準剛性 (KN/rad./m)	材 料	設計板厚 (mm)	釘打ちの方法		基準耐力 (KN/m)	基準剛性 (KN/rad./m)
		種 類	間隔 (mm)					種 類	間隔 (mm)					種 類	間隔 (mm)		
□石膏ボード張り (GB-R、厚12mm以上)		ビス(φ3.8以上 長さ28~40mm)	胴縁に @150	1.3	350	□構造用合板貼り、真壁 (特類、2級以上、厚7.5mm以上)		N50	貫に @150	3.0	430	□構造用合板貼り、大壁 (特類、2級以上、厚7.5mm以上)		N50	川の字打ち @150	3.1	470
□石膏ボード張り (GB-R、厚12mm以上)			GN40 胴縁に @227.5	1.1	180	□貫タイプ（内壁用）						□石膏ボード直張り、大壁 (GB-R、厚12mm以上)		GNF40 又は ビス(φ3.8以上 長さ28~40mm)	川の字打ち @150	2.0	340
□						□石膏ボード張り (GB-R、厚12mm以上)		GNF40 又は ビス(φ3.8以上 長さ28~40mm)	貫に @150	1.6	440	□構造用合板貼り、真壁 (特類、2級以上、厚7.5mm以上)		N50	川の字打ち @150	4.0	730

※表中にない大壁で胴縁下地の壁面の場合は、(一財)日本建築防災協会「木造住宅の耐震診断と補強方法」に記載の修正基準耐力及び修正基準剛性を用いる。

※準耐力壁仕様は、「品確法」に基づく評価基準(H13国交省告示第1347号)の第5の1-1の(3)のホの①の表1で定義されている仕様をいい、本仕様書で採用出来るものは上記3種のみとする。
(但し、日本建築防災協会において個別評価を取得した準耐力壁タイプは除く)



※準耐力壁タイプにおける真壁補強の受材等の仕様は「本特記仕様書No.4」真壁タイプに倣うこと。

※本特記仕様書は、チェック印又は○印を付した物を適用する。		設計年月日	工事名称	図面番号
		縮尺	図面名称 vol.2012 木構造耐震補強工事特記仕様書No.5	